

平成22年度 京都府医師会勤務医部会 活動報告

1. はじめに

深刻な医師不足・偏在、勤務医の過重労働、さらには患者の権利意識の向上による医療訴訟の増加など、医療界は厳しい環境におかれている。さらに、医療安全対策、研修医の指導や自らの生涯教育のあり方など、勤務医を取り巻く問題は多岐に渡っており、いずれの問題もこのままでは放置できない状況となってきた。勤務医部会としては、この危機的状況を乗り切るためにも、勤務医部会を活動拠点として、種々の問題解決に向け積極的に取り組んできた。今後も一人でも多くの勤務医に医師会入会を訴え、開業医と勤務医とが一致団結し、叡智を結集することで、これら諸問題の解決に努力していきたい。

2. 部会員数

京都府医師会勤務医部会は、発足以来27年を迎えた。平成23年1月1日現在の部会員数は、1,716名で昨年より21名の増で、府医総会員数中、40.7%を勤務医部会員が占めている。ここ数年は減少傾向にあったが、今年は若干の増となった。しかし、京都府内に従事する勤務医の約3分の2が医師会に未加入であることを考えると、依然、組織率が低迷していると言わざるをえない。

<表1> 過去5年間の勤務医部会員数の推移

年度	勤務医部会員	京都府医師会総会員数	%
平成23年	1,716名	4,216名	40.7%
平成22年	1,695名	4,206名	40.3%
平成21年	1,699名	4,210名	40.3%
平成20年	1,739名	4,247名	40.9%
平成19年	1,718名	4,222名	40.7%

※基準日：1月1日現在

3. 部会役員に関する件

森勤務医部会長のもと、幹事長に内藤和世氏、副幹事長に日下部虎夫氏、吉田憲正氏、紀田康雄氏にご就任いただいた。平22・23年度の役員は次頁のとおり。なお、任期は平成24年3月31日まで。

役 職	氏 名	医 療 機 関
部 会 長	森 洋 一	森小児科医院
幹 事 長	内 藤 和 世	京都市立病院
副幹事長	日下部 虎 夫	京都第二赤十字病院
〃	吉 田 憲 正	京都第一赤十字病院
〃	紀 田 康 雄	第二岡本総合病院
幹 事	白 方 秀 二	社会保険京都病院
〃	安 田 健治朗	京都第二赤十字病院
〃	相 良 幸 彦	堀川病院
〃	新 谷 弘 幸	京都市立病院
〃	吉 波 尚 美	京都市立病院
〃	吉 岡 秀 幸	京都通信病院
〃	盛 房 周 平	洛和会丸太町病院
〃	清 水 聡	京都南病院
〃	三 宅 正 幸	武田病院
〃	齋 藤 信 雄	N T T西日本京都病院
〃	江 川 晴 人	日本バプテスト病院
〃	若 園 吉 裕	京都桂病院
〃	宮 崎 博 子	京都桂病院
〃	水 野 雅 博	三菱京都病院
〃	巨 島 文 子	京都第一赤十字病院
〃	閑 啓太郎	愛生会山科病院
〃	武 内 俊 史	洛和会音羽病院
〃	近 藤 撰 子	洛和会音羽病院
〃	橋 本 哲 男	医仁会武田総合病院
〃	秋 山 祐 一	京都医療センター
〃	山 本 美 保	京都医療センター
〃	北 村 浩 二	済生会京都府病院
〃	門 田 一 宣	宇治武田病院
〃	蔭 山 典 男	宇治病院
〃	新 井 正 弘	公立山城病院
〃	森 竹 浩 三	亀岡シミズ病院
〃	塚 本 賢 治	公立南丹病院
〃	鴻 巣 寛	綾部市立病院
〃	上 野 たまき	綾部市立病院
〃	太 田 努	市立福知山市民病院
〃	富士原 正 人	京都ルネス病院
〃	布 施 春 樹	舞鶴共済病院
〃	法 里 高	舞鶴医療センター
〃	関 本 達 之	府立与謝の海病院
〃	福 田 和 彦	京都大学医学部附属病院
〃	小 川 修	京都大学医学部附属病院
〃	大 越 香 江	京都大学医学部附属病院
〃	内 藤 裕 二	京都府立医科大学病院
〃	阪 上 順 一	京都府立医科大学病院
〃	外 園 千 恵	京都府立医科大学病院

4. 幹事会の開催

22年度は3回の幹事会を開催し、今年度の事業内容を検討するとともに、勤務医の入会促進、総会の運営について協議した。

開催日	会合名	協議事項
2010.7.31	幹事会	(1) 平成22年度事業計画 (2) 平成22年度勤務医部会総会の運営 (3) 「勤務医通信」への執筆
2010.11.13	幹事会	(1) 平成22年度勤務医部会総会の運営 (2) 「勤務医通信」への執筆 (3) フリーディスカッション
2011.1.29	幹事会	(1) 平成22年度勤務医部会総会の運営 (2) 「勤務医通信」への執筆 (3) フリーディスカッション

5. 女性医師ワーキンググループの開催

今年度の勤務医部会では、女性医師支援策への具体的な検討を進めるために、女性勤務医8名を幹事として委嘱し、女性医師WGを設置した。今年度は1回のみで開催であったが、次年度は定期的な開催を予定している。

開催日	会合名	協議事項
2011.1.6	女性医師WG	(1) 平成22年度女性医師をサポートする会の運営 (2) 今後の女性医師支援策に向けた検討

6. 府医各種委員会委員等への推薦

今年度、勤務医部会から府医各種委員会の委員として下記3委員会に3名の幹事を推薦し、各委員会にて勤務医の意見が反映されるよう意見具申していただいた。

- 医業経済・融資斡旋委員会 紀田 康雄 副幹事長
- 広報・情報・企画委員会 巨島 文子 幹事
- 学術・生涯教育委員会 日下部虎夫 副幹事長

また、勤務医部会員数が府医会員総数の40%以上を占める中で、府医代議員107名中、勤務医の代議員数は3名、京都大学および京都府立医大の計4名を加えても計7名と、その比率は6.5%であり、勤務医の意見が府医の会務執行に届きにくい状況といえ、この点は今後の課題といえる。

7. 京都府医師会への入会促進

京都府医師会入会促進事業の一環として、勤務医向けの入会パンフレットを作成し、各方面で配付した。

8. 乳がん検診などへの出務医師の派遣

地域医療活動として、京都府医師会乳がん検診委員会との合議のもと、出務医師の派遣を行っており、今年度は京都市内（1地区）において勤務医を派遣した。

9. 第36回京都医学会への演題発表

学術関係では、2010年9月26日（日）に開催された第36回京都医学会に勤務医より演題発表を行い、医学会を盛り上げた。

10. 京都医報「勤務医通信」欄への投稿

京都医報内に「勤務医通信」コーナーを設け、幹事の先生方に執筆をお願いしてきた。テーマは執筆者の自由としており、勤務医の生の声として執筆いただいた。

11. 全国医師会勤務医部会連絡協議会への参加

2010年10月9日（土）、栃木県宇都宮市で開催された平成22年度全国医師会勤務医部会連絡協議会（栃木県医師会主管）に幹事長および担当理事、事務局が参加した。協議会のメインテーマは「地域医療再生～地域の力、医師の団結～」で、深刻な医療崩壊の現状を一刻も早く改善し、魅力ある職場を取り戻し、明るい明日の医療を築くため、勤務医を取り巻く諸問題について、さまざまな角度から議論された。なお、協議会当日には「栃木宣言」が採択された。

栃 木 宣 言

小泉政権以来の医療費抑制政策は政権交代により転換されたが、現状と乖離した医療介護政策では国民が安心できる医療体制は構築できない。国内外の現状を正確に分析した evidence-based の政策の立案を切に願う。また、現代の医療、社会とマッチしない旧態依然たる医師法、医療法も勤務医の労働環境を悪化させている一因であることは否めない。我々、勤務医は、このような厳しい現状の変革を希望しつつも、限られた医療資源を最大に活かし、国民が望む最善の医療を提供する使命がある。

よって、我々は以下の宣言をする。

- 一、医療の高度化、加速する高齢者増に見合った医療・介護予算の増額を求める。
- 一、勤務医の労働時間を OECD 加盟国の平均水準にできる医師数の実現を求める。
- 一、活力ある男女共同参画を推進するために、支援体制のさらなる整備を求める。
- 一、勤務医が患者のための医療に専念できる医師法、医療法の改正を求める。
- 一、勤務医は、地域のすべての医師との連携を強化し、地域住民と協働して医療再生に取り組む。
- 一、勤務医は医療・介護行政の改善を要求すると共に、自らも、常に向上心を持ち己を律し献身的に医療に従事する。

平成 22 年 11 月 19 日

全国医師会勤務医部会連絡協議会・栃木

12. 都道府県医師会勤務医担当理事連絡協議会への参加

2010年11月19日(金)、日本医師会館で平成22年度都道府県医師会勤務医担当理事連絡協議会が開催され、担当理事と事務局が参加した。協議会では「勤務医の視点からの医師会改革」をメインテーマに、秋田・新潟・宮崎の各府県医師会より勤務医活動報告が行われた。